

# みやぎの 林業だより



広葉樹ビジネス講座



オープンカレッジ



林業DX講座

## 特集 みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより②

令和4年4月、みやぎ森林・林業未来創造カレッジが本格開校しました！

今年度の林業だよりでは、カレッジの様々な研修の様子を3回にわたり、特集しています。

第2回目となる本号では、4月から順次開催されている研修のうち、「広葉樹ビジネス講座」及び「林業DX講座」の研修内容と10月に開催されたオープンカレッジの様子を御紹介します。



森林づくり・木づかい表彰



令和4年度農林水産物品評会



緊急総合治山工事の完成

令和4年12月23日  
発行

228号

特集	みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより②	1～2
話題	今年度からの新コーナー	
	◎あつまれ！みやぎの森林人！「堀籠健太さん(大和町)」	3
	各種取組	
	◎令和7年「第48回全国育樹祭」の宮城県開催が決定！	3
	◎森林づくり・木づかい表彰	4
	◎みやぎの木づかい運動2022	5
	◎地域のシンボリックな大型木造施設へのFSC認証材供給	6
	◎森林の仕事ガイダンスへ出展	6
	◎令和4年度農林産物品評会(林産物部門)開催	7
	◎森林経営管理事業の実施に向けた現地調査指導 ～森林経営管理制度の推進～	7
	◎県営林道「七ツ森湖～泉ヶ岳線」が着工しました！	8
	◎令和元年東日本台風による緊急総合治山工事の完成報告	8
	◎ドローンを活用した伐採跡地の確認	9
	◎「石巻圏域における再生林促進に関する協定」による植樹式	9
	◎「鳥獣被害対策専門指導員」によるイノシシ捕獲の取組	10
	◎ツキノワグマの錯誤捕獲ゼロを目指して	10
	◎令和5年度宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集	11
	◎ハタケシメジの新品種開発に向けて	11
市況	◎木材市況の動向・特産市況の動向	12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



# 特集 みやぎ森林・林業 未来創造カレッジだより②

まず最初に、カレッジ研修から、「広葉樹ビジネス講座」と「林業DX講座」の様子を紹介します。



広葉樹林の現地講義

「広葉樹ビジネス講座」は、県産広葉樹資源の有効活用に向け、広葉樹林に関する基礎知識から資源管理の方法、製材・製品加工等、利用に関する技術の習得、ワークショップでの家具製作までを学ぶ2年間コースで、林業・木材関係者だけでなく、NPO法人、セラピストなど幅広い方々が受講しています。製材工場の視察研修では、四ッ

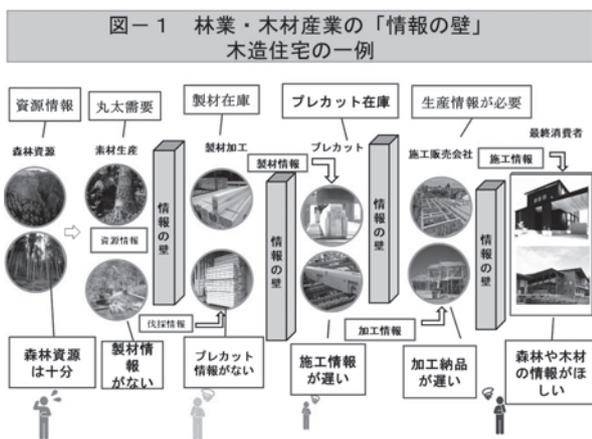


思い思いのロッキングチェア  
皆さん笑顔の研修成果



工場視察(広葉樹天然乾燥)

乾燥状況の説明を受け、大量の需要があることを再認識していました。



研修の仕上げとなるワークショップでは、受講生自らがデザインしたロッキングチェアを製作し、出来映えを評価しました。

「林業DX講座」では、県産材の需要拡大に向け、「情報の共有化」による「持続的に儲ける林業・木材産業の構築」の基礎となるデジタルリテラシー向上研修を実施しています。DX講座では、「ブロックチェーン」という聞き慣れない技術によるサプライチェーンの構築や、一般消費者まで情報を共有するという目標に向け、デジタル技術の有効活用を阻んでいる「情報の壁」の存在を解決する方法について

簡易プログラムを活用した、伐採からプレカット加工までのトレーサビリティのデモ体験では、デジタル技術による生産データの共有が、それぞれの事業効率化と密接に関係していることを実感し、研修の重要性を再認識していました。

これからも、先進的な課題で、外部講師とともに試行錯誤を重ねながら、林業DXの実践を担う人材の育成を図っていきます。



簡易プログラムによる研修状況

て、ワークショップでの検討も行っていきます

これまでの森林認証材のサプライチェーン構築を題材とした検討に加え、今年度後半からは、県産材の合法性証明のデジタルシステム化に向けた実践研修を行っています。

次に、十月十四日・十五日に開催された「オープンカレッジ」の様子を紹介します。

このイベントは、若い世代が魅力を感じる森林・林業の創造に向けて、「多くの方々が参加・交流する場づくり」として開催しました。

両日で約二百名が参加し、カレッジの人材育成プログラムやみやぎ森林・林業未来創造機構の「就業環境向上プロジェクト」に関する情報交換、学生や一般の方々が森林・林業へのつながりを深めるワークショップなどを行いました。機構ではこれらの結果を今後の活動に反映していきます。

【二日目】参加型で主要課題を検討

初日の基調講演において、講師である(株)柴田産業代表取締役の柴田君也氏は、IOTや次世代機械、ドローンを駆使し世界レベルの生産性を実現することで、森林循環システムの構築を目指す自社の構想と取組を紹介し、伐採後の再造林実行と、地域や異業種との交流による、森林の新たな価値創出の重要性を強調しました。

講演後は、三つの分科会に分かれて先進事例を発表し、これらを参考にしたグループ討議を行って、各テーマを推進していく上での問題と



分科会グループ討議

その解決策の検討や、全体会での発表、意見交換を行いました。各分科会から提案された解決策…▼人材の確保育成…所得目標の設定や作業の機械化・自動化、人材育成方法の確立▼スマート林業の推進…地形データや費用対効果情報の整備▼育林技術の進化…実証モデルづくりや技術の共有化など。

【二日目】二つの交流会を開催

①林業の安全とイノベーション交流会  
会々公開実技・トークでは、知事の認定を受けた伐倒技能指導者が実技を披露し、伐倒練習機を用いて作業精度を高めることや、事業体と現場の指導役に作業の基本を徹底していくことの重要性をアピールしました。

基調講演において、ノースジャパ

ン素材流通協同組合理事長の鈴木信哉氏は、「〇〇ショック」は海外に依存し過ぎた結果、海外事情により引き起こされるとし、教訓として、梁桁、2×4用など外材比率の高い部材を国産材に換えていくこと、そのために川上・川中・川下の迅速な情報流の確保とストックの分担、家具・建具等加工分野との関係再構築など、アメンバー方式のサプライチェーンの確立を提唱しました。

さらに、就業環境や作業強度の改善に向け新技術の普及に取り組む企業が情報を提供し、参加者が操作を体験しました。

②森林・林業とつながる・未来を広げる交流会  
森の恵み入門では、(株)佐久の大瀧香菜子氏が森林の多様



リモコン式草刈機操作体験

な価値を解説し、「森の恵みを形にする仕事」として取り組んでいる、人が安らげる商品の開発や教育プログラムの提供を紹介しました。柴田農林高校の生徒はメープルシロップやフローラルウォーターの商品化など「森の6次産業化」学習を紹介したほか、大河原地方振興事務所の前山恵美氏は、林業普及指導での支援や森林の多様な用途を説明し「まずチャレンジしよう」と呼びかけました。

ワークショップではスプーンとフォーク、葉っぱトートバック、香り袋、アロマウォーターを制作し、一般参加者も楽しみ、事業者にも参考となる交流会になりました。



アロマウォーター制作

(みやぎ森林・林業 未来創造機構事務局)

あつまれ！みやぎの  
森林人！



(一社)吉田愛林交益会  
堀籠 健太さん

今回ご紹介する方は、(一社)吉田愛林公益会で昨年から職員として活躍されている堀籠健太さんです。

1 現在の業務

当会が所有するおよそ三千畝の山林の管理を、様々な機関の協力を得て行っています。

2 現在の職場で働くきっかけ

会長から当会について教えていただく機会があり、生まれ育った地域に直接目に見える形で貢献できることに魅力を感じ、大学卒業を機に働き始めました。

3 業務で心がけていること

「山の管理は自分たちだけではできない。人と人とのつながりが大切」四十年のキャリアを持つ先輩職員からひとつでも多く学びたい」の二つを心がけています。

4 仕事をしていて楽しいこと

現場でそれぞれの山の背景を感じることができるとき。

5 仕事をしていて大変なこと



自分たちだけでは林業経営はできないこと。やはり様々な人とのつながりがあって仕事ができる実感があります。

6 プライベート(趣味など)

硬式テニスを高校から続けています。今は高校時代の仲間と週に一回ほど集まっています。そろそろ大会にも出たいと思っています。

7 今後の抱負

何十年か先の長期の目線を持って仕事をする。自分の仕事の結果が山に現れるので、信念を持って仕事をしていきたいと考えています。

8 林業・木材産業への期待

仕事の原点は現場にあることを実感しています。森林所有者の目線で、様々な山の現場をもっと知ってもらいたいです。

(仙台地方振興事務所)

令和七年「第四十八回全国育樹祭」の宮城県開催が決定！

令和七年の「第四十八回全国育樹祭」について、令和四年八月八日に開催された(公社)国土緑化推進機構理事会において、本県での開催が正式に決定しました。

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを伝えるため、昭和五十二年から全国植樹祭を開催したところある都道府県において、(公社)国土緑化推進機構と都道府県の共催で、毎年秋に行われている、国民的な森林・緑の祭典です。

全国育樹祭では、全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木への、皇族殿下による



第45回全国育樹祭  
(皇嗣殿下お手入れ)

お手入れ行事(枝打ち・施肥等)や緑化功労者表彰等を行う式典行事などが行われます。

本県では、昭和三十年に「第六回全国植樹祭」を現在の昭和万葉の森(大衡村)で開催し、平成九年には「第四十八回全国植樹祭」を国立花山青少年自然の家南蔵王野営場(白石市)において開催しておりますが、全国育樹祭は、初めての開催となります。



第6回  
全国植樹祭会場  
(開催当時の様子)



第48回  
全国植樹祭  
天皇陛下  
お手植え

今後は、全国育樹祭が成功するように、令和七年秋の開催に向け、関係機関と連携しながら、万全の準備を進めていきます。

(林業振興課)

# 森林づくり・木づかい表彰

県は、森林づくりや木材利用に対する県民等の参加及び理解の促進を図るため、「みやぎ森と緑の県民条例」に基づいて、森林づくりや林業・木材産業の振興に関して、特に功績があった方に感謝状の贈呈を行う「森林づくり・木づかい表彰」を実施しています。

今年度は十一月十一日に表彰式を行い、村井知事から「森林づくり表彰」一者、「木づかい表彰」



感謝状贈呈

(左から 住友生命保険相互会社様、村井知事、学校法人たちばな学園「みやの森こども園」様、株式会社タカカツホールディングス様)

表彰二者に感謝状を贈呈しました。

## 森林づくり表彰(一者)

### ◆住友生命保険相互会社

平成二十四年度に県と「わたしたちの森づくり事業実施協定」を締結し、利府町内の県有林約四・五畝において、植栽や保育などの森林整備や森林レクリエーション等の活動に継続的に取り組んでいます。

社員や家族等による森林整備等の活動は十年間継続されており、自然保護や地球温暖化防止への意識が高まるとともに、取組



社員等が継続的な森林整備を実施

を通して森林が持つ公益的機能の維持・増進に寄与しています。

## 木づかい表彰(二者)

### ◆学校法人たちばな学園

#### 「みやの森」こども園

令和三年度に新たに建設された「みやの森こども園」の木造園舎は、県産材がふんだんに使用されており、木の温もりが感じられる施設となっています。

特にテラス部分は、屋根に県産CLTを使用することによって強度が増し、柱が不要な開放的な空間が確保されており、園児の「木育」に活用されています。



木のぬくもりあふれる園舎

### ◆株式会社タカカツホールディングス

グループ全体で県産材を活用した製材品等の生産力強化に取り組み、民間施設や大型木造公共施設にJAS認証の県産材を供給しています。また、県産CLT等を活用した住宅展示場の開設などを通じて、住宅分野から非住宅分野まで、幅広く県産材の利用促進と地域産業の振興に寄与しています。



県産CLT等を使用した住宅展示場

受賞された皆様、おめでとうございます。

(林業振興課)

# みやぎの木づくり運動 2022

県は、市町村や関係団体、企業等と広く連携し、森林・林業・木材に関する情報提供やイベント等の開催により、県産材の利用促進を図る「みやぎの木づくり運動」を実施しています。今年度は運動の一環として、首都圏において県産材を使った木工体験会を開催するとともに、九月から十一月の「県産材利用推進月間」において、みやぎの森林・林業「写真」コンクールや、みやぎ児童「木工工作」コンクールが開催されたので御紹介します。

## 宮城ふるさとプラザで県産材による木工体験会を開催

首都圏での県産木製品の需要拡大と森林認証材の認知度向上を図るため、八月十九日から三日間、東京都豊島区の「宮城ふるさとプラザ」において、県産材を使った木工体験会やFSC認証材による木製品の販売等のイベントを開催しました。

このイベントは、(一社)南三陸YES工房と南三陸森林管理協議会の協力を得て開催したもので、木工体験では、南三陸のFSC認証材を使ったタコのペン立て「モクトパス君」の組み立てや、県産材によるスプーンや箸置き等の製作体験を行いました。池袋駅前という立地もあり、プラザ内は買い物客等が引つ切り無しに訪れ、多くの方々に県産のFSC認証製品等について、普及PRすることができました。



宮城ふるさとプラザでの木工体験会等の様子

## 第十五回みやぎの森林・林業「写真」コンクール

当コンクールは、公益財団法人みやぎ林業活性化基金の主催で、水源の確保や山地災害の防止など森林の重要性を理解してもらうことを目的に開催されています。人と森林や木材とのふれあいをテーマに、今年度は県内外から五十八名(二十代〜九十代)、百三十六名の応募があり、

審査により入選作品八点が選ばれました。

応募作品については、十一月に、東北電力グリーンプラザ「アクアホール」で展示され、来年二月一日からは、県民の森展示室(利府町)において展示される予定です。是非お立ち寄り下さい。



最優秀賞(県知事賞)受賞作品「秋深し」

## 第十五回みやぎ児童「木工工作」コンクール

木工工作コンクールは、宮城県木材同友会の主催により、次代を担う子供たちに身近な森林や木材の良さを知ってもらうことを目的に開催されています。今年度は、県内の小学校及び特別支援学校から百九十二点が出品されました。

はじめに各地方振興事務所(地域事務所)で予備審査が行われ、

審査の結果、小学校低・中・高学年の各部門においてそれぞれ六点と、特別支援学校の部の五点、合計二十三点が入賞作品として決定されました。

本審査出品作品については、宮城木材文化ホールにおいて、十月八日〜十一月四日まで展示され、十一月五日に、同ホールにおいて表彰式が行われ、入賞者に賞状と記念品が贈られました。



最優秀賞(県知事賞)受賞作品(高学年の部)「守りたいもの」  
※木目の特徴を寿司ネタに見立てた作品

最優秀賞(県知事賞)を受賞した三作品については、来年三月に行われる日本木材青壮年団体連合会主催の全国大会に出品される予定です。

(林業振興課)

### 地域のシンボリックな大型木 造施設へのFSC認証材供給

登米地域では、登米市森林管理協議会(以下、「協議会」)が主体となって平成二十八年にFSC森林認証(FM認証)を取得し、その後認証面積を拡大しながら、認証材の安定供給に努めてきました。

このような中、地元のみやぎ登米農業協同組合(以下、「JA」)が本店・中田支店の建替に当たり、「地元の登米産材の活用」「昨今の環境意識の高まり」「SDGsへの取り組み」をコンセプトに国土交通省の「令和三年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)」に応募し、全国のJAとして初めて採択されたのを受け、令和四年一月に協議会とJAは認証材の供給に關しての協定を締結しました。

その後、協議会では五ヶや六ヶといった長尺材の需要に適切に 대응することや、まとまった量の認証材を確実に供給することを目的として、造材に係る現場検討会を開催し、伐採作業を急ピッチで進めました。

その結果、計画どおり原木換

算で約一千三百立方メートルの認証材を納めることができました。

新たなJA本店・中田支店の建築物には、一般的に流通する製材品規格で事務所用途としての必要な大スパンを確保するため、「束ね柱」「重ね梁」「重ね肘木」による架構が採用されており、これらの技術は構造的な性能の担保だけでなく、空間を印象付ける意匠的な役割も果たしています。

令和四年九月には、登米市長やJA組合長のほか、多くの関係者参列のもと、厳粛に上棟式が執り行われたほか、構造見学会も開催されました。

工事は令和五年二月の完成を目指して順調に進んでいます。



関係者が多数参列した上棟式

(東部地方振興事務所  
登米地域事務所)

### 森林の仕事ガイダンスへ出展

十月二十二日に東京国際フォーラム(東京都)で開催された「森林の仕事ガイダンス」に、公益財団法人みやぎ林業活性化基金と合同で宮城県のブースを出展しました。

本イベントは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方や就業を考えている方に、就業相談等を行うもので、全国の都道府県がそれぞれ、林業の作業内容や就業に関する情報を提供しています。

会場では、国の職業訓練制度である「緑の雇用事業」の研修生によるトークショーなども行わ



緑の雇用事業研修生による  
トークショー

れました。

宮城県ブースには、Uターンに向けて就職先を検討している方や、ボランティア活動や学生時代に宮城県と縁があった方などが相談に訪れていました。

相談者からは、宮城県の林業の特色や雇用条件などの質問がありました。中には、各相談コーナーで様々な情報に触れるうち、却って、不安を口にされる方もいたので、就業向けガイダンスや就業体験会に参加し、まずは、自ら森林作業を経験してみることを勧めるなどしました。

会場には、延べ千六百六十四人の来場があり、宮城の林業や暮らしやすさについてPRすることができ、今後の新規就業者に繋がられる良い機会になりました。



宮城県ブースでの就業相談

(林業振興課)

# 令和四年度 農林産物物品評会 (林産物部門)開催

農林産物の生産技術の向上及び生産意欲の喚起を図ることを目的に、令和四年度農林産物物品評会が開催されました。十月二十一日に、宮城県林業技術総合センターにおいて行われた林産物部門の審査には、地域を代表する生しいたけ十八点が出品され、どれも生産者の高い技術を反映した形状が均一で素晴らしい品質のものでした。厳正な審査の結果、特に優秀な生しいたけが農林水産大臣賞として選定されました。



農林水産大臣賞 (伊東茂子)

二十三日にせんだい農業園芸センターにおいて、宮城県花き品評会と併せて展示され、受賞者に対して、十月二十八日に宮城県庁舎にて表彰式が行われました。

## 【審査結果(生しいたけ)】

- ① 農林水産大臣賞  
伊東 茂子(大崎市)
- ② 林野庁長官賞  
安達 千恵子(仙台市)
- ③ 食用茸協同組合長賞  
農事組合法人コンスタンス  
(大和町)
- ④ 森林組合連合会長賞  
浅井 修(大和町)
- ⑤ 林業振興協会会長賞  
株式会社ワンス(登米市)
- ⑥ 特用林産振興会長賞  
千葉 敏恵(大崎市)



表彰式

(林業振興課)

## 森林経営管理事業の実施 に向けた現地調査指導 (森林経営管理制度の推進)

森林経営管理制度は、市町村が森林所有者の意向を踏まえた経営管理権を集積計画として設定し、森林経営に適した森林は林業事業体に再委託し、経営に適さない森林は、森林経営管理事業として市町村が間伐等を実施するものです。

栗原市においては、林業経営に適さない森林のみを対象とした集積計画としていますが、今年度の計画である三百六十七の林小班(約九十畝)の間伐の実施に向けて、市の現地調査に同行



現地調査の様子

しました。林業経営に適さない森林を対象としているため切捨間伐(保育間伐)が主体となりますが、林業事業体に対しての入札による事業発注となるため、事業費の設計・積算、予定価格の設定、仕様書の作成等を要することとなります。

このため現地調査では、齢級毎に一箇所、百平方メートルのプロットを設定して毎木調査を行い、間伐木の選木を行いました。

その結果、森林所有者、地形、林齢、林況等が異なる事業箇所を、どのような単位で委託に付すか、設計・積算の手法として林小班単位に積算するか、標準単価を採用するか等が課題として確認できました。

今回、栗原市林政アドバイザー二名とともに、延べ十四箇所のプロット調査に同行し、栗原市版標準単価表の資料を提供するなど支援し、この度、全箇所の調査・積算を終えました。今後は、事業発注に向けて、業務を進めていくことになるので、引き続き市を支援していきます。

(北部地方振興事務所  
栗原地域事務所)

**県営林道「七ツ森湖」泉ヶ岳線」が着工しました！**

大和町吉田地区と仙台市泉区福岡地区を結ぶ林道「七ツ森湖」泉ヶ岳線（略称「七泉線」）の開設工事を今年五月に着工しました。

林道「七泉線」は、県内初となるセミトレイラーが通行できる高規格道路として設計されており、計画総延長は約九岐（大和町側約五岐・仙台市側約四岐）、民有林・国有林を合わせた利用区域面積約千百畝を有する基幹林道として令和十年度の完成を目指しています。

この林道が整備されることで、より広域的な森林整備が促進され、県産木材の安定供給が図られるほか、地域間での交流人口の拡大、公道が被災した際の迂回路としての役割などが期待されており、地元関係者からも早期の完成が望まれているところです。

工事は仙台地方振興事務所が発注し、現場監督を行っています。現在は写真のとおり、七ツ森湖工区と泉ヶ岳工区の二つの工区で鋭意工事を進めていると

ころです。完成までの道のりは長いですが、一日も早くこの林道が活用されるよう計画的な整備を進めていきます。



七ツ森湖工区施工状況



泉ヶ岳工区施工状況

（仙台地方振興事務所）

**令和元年東日本台風による緊急総合治山工事の完成報告**

本吉郡南三陸町の滝浜地区において、令和元年東日本台風で被災した海岸崖地保安林の復旧が全て完了しましたので、報告します。

当該地区では、東日本台風の大雨により大規模な山腹崩壊が発生しました。その影響で斜面上部に位置する町道が通行不可となるほか、大量の土砂が海洋や漁場施設に流出するなど大きな被害をもたらしました。当所では、被災した保安林を復旧するため、当年度中に災害関連緊急治山事業の採択を受け、町道の復旧を図る南三陸町と連絡調整を行いながら、まずは町道と接する斜面において、土留工及び現場吹付法枠工により早期復旧を図りました。

その後、大雨被害のほか波浪や高潮により侵食が進行していた隣接斜面についても、拡大崩壊及び侵食を防止するため、翌年の令和二年から緊急総合治山事業により復旧工事を進めました。

海岸沿いということもあり施

工中は海洋の影響を強く受け、不測の事態により工事が順調に進まないこともありましたが、地元関係者の方々の多大な御協力もあり、令和四年九月をもって本工事が全て完了しました。当所では平成二十三年の東日本震災以降、被災した海岸部の防潮堤や防災林の復旧を重点的に行ってきました。今後山間部を含め県土の保全を図っていきます。



【滝浜】完成後全景写真

（気仙沼地方振興事務所）

### ドローンを活用した 伐採跡地の確認

森林計画制度の現況訂正のうち、伐採箇所の現地確認においては、これまで主に車道等からの目視確認を主としていましたが、林道から離れた区域等では精度や作業効率の点で限界があることから、ドローンを活用した伐採跡地の確認を実施することとしました。

現地確認は、一迫花山地区の皆伐跡地で他の用途に転用した場所と皆伐のみで未植栽とした林地で実施しました。

住宅地の近くでは、土地所有者の了解を得る必要があるほか、大面積の伐採跡地では、ドローンの飛行高度に制限があるため、撮影に移動距離を要するなど、事前に飛行計画を立てる必要があります。



皆伐跡地にてドローンを操縦

これまでの経験から広角レンズ

を装着し、広範囲の撮影を可能としたことや、離陸地点を山頂から行うなど、工夫を重ねてきたところからです。

その成果は、伐採範囲を写真データで得られ、既存の図面と見比べることができ、修正が容易となりました。

ドローンによる空撮は、データを残すことが可能なため、後々の森林更新を容易に把握できることから、今後とも使用を継続して森林計画の精度向上につなげられればと思います。



伐採範囲の輪郭が明確に

(北部地方振興事務所  
栗原地域事務所)

### 「石巻圏域における再造林促進 に関する協定」による植樹式

森林資源の充実により、石巻圏域(石巻市・東松島市・女川町)でも近年各地で人工林の伐採・収穫が進む一方、伐採跡地の更新が課題となっています。このため、持続的な森林経営やSDGs(目標15「陸の豊かさも守ろう」など)の達成を目指し、再造林を進めようと、令和二年六月に、以下の三者で協定を締結しました【(株)山大(県内最大級の製材工場)、石巻地区森林組合(中核的な担い手)、東部地方振興事務所(取組支援とPR)】。

この協定に基づく二回目の植樹式が、十一月二十八日に石巻市北上町で開催されました。

苗木については、協定に基づいて(株)山大から提供されたもののほか、BXカネシン(株)(東京)住宅資材メーカー)からも寄付をいただきました(再造林の取組に賛同し、BXカネシン(株)と(株)山大で「再造林に関する協定」を別途締結しています)。

また、会場の山林から産出された木材は東北ボーリング(株)(仙台市若林区)の新社屋の部材

(柱・梁材、床や屋根にCLT)として使われていますが、同社では、木材を使用することのみならず、植樹活動まで行うことで被災地復興や周辺環境の維持に取り組むことを目指しています。

そのため、当日は協定による三者のほか、BXカネシン(株)及び東北ボーリング(株)の社員の方々も参加し、〇・三五杉の山林にスギ苗を七百本植栽しました。

当所では、今後も取組の推進に向け、関係者と連携した再造林を進めていきます。



東北ボーリング(株)  
の新社屋



植樹式後の  
記念写真

(東部地方振興事務所)

「鳥獣被害対策専門指導員」  
によるイノシシ捕獲の取組

近年、野生鳥獣の増加による農作物被害が深刻化している一方、これらの野生鳥獣を捕獲できる狩猟者は減少・高齢化しており、狩猟者の確保・育成は重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、県では平成二十九年度より、大河原地方振興事務所に有害鳥獣の捕獲を専門とする非常勤職員を配置し、管内における農作物鳥獣被害の約七割を占めるイノシシの捕獲体制強化を図っています。

配置された非常勤職員は、有



箱わなで捕獲したイノシシ



射撃訓練の様子  
(宮城県クレー射撃場)

害鳥獣捕獲のために必要な狩猟免許や銃所持許可などの資格を取得した後、「鳥獣被害対策専門指導員」として、自らわな(箱わな及びくくりわな)を設置し、農作物被害の低減に向け、イノシシの捕獲活動を実施しています。現在、七名の鳥獣被害対策専門指導員により、管内の五市町(白石市、蔵王町、村田町、川崎町、丸森町)において、土日も巡回活動を行うようにシフトを組み、毎日捕獲活動を行っています。

今後も、市町・地元捕獲隊等との連携・連絡調整のもと、イノシシ捕獲に全力で取り組んでいきます。

(大河原地方振興事務所)

ツキノワグマの錯誤捕獲  
ゼロを目指して

当管内では、イノシシの捕獲頭数の増加に伴い、ツキノワグマ(以下「クマ」)の錯誤捕獲も増加している状況となっています。

クマとイノシシは生息域が同じであり、イノシシのみに特化した捕獲は難しいため、「極力クマが生息していると思われる場所にはくくりわなを設置しない」、「真円十二坪のくくりわなの使用の促進」、「クマを誘引する撒き餌の禁止」などを徹底するよう指導しています。

しかし、イノシシの捕獲率アップに有効な方法の一つは、「撒き餌」であるため、適切な捕獲を目的として、今年度から、



餌に誘引されるクマ

「ツキノワグマの錯誤捕獲防止実証調査」を実施することとしました。

この調査は、色麻町と共同で実施しており、協力者として色麻町地域おこし協力隊、アドバイザーには、野生動物の保護や管理などを手掛ける、「かさなりデザイン合同会社」の鈴木CEOに御助力いただきながら進めているところです。



撒き餌を捕食しているイノシシ  
わなの前の餌を捕食している

実証調査は、「大豆」や「さつまいも」などを使用して、定点カメラにより捕食の状況を観察するもので、イノシシの誘引に特化した餌となる食材を特定し、イノシシの捕獲率を上げるとともに、クマの錯誤捕獲を防ぐことを狙いとしています。

(北部地方振興事務所)

# 令和五年度宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集

森林体験活動や自然観察の指導、森林づくりを通して森林・林業に関する正しい知識の普及活動を行う人材を育成するため実施する、宮城県森林インストラクター養成講座の受講生を募集しています。

- ① **申し込み資格** 令和五年四月一日現在で満二十歳以上の県内在住の方で、森林学習や自然体験の指導等に積極的に取り組むことができる方
- ② **募集人員** 四十人程度
- ③ **受講期間** 令和五年五月から令和六年一月までの主に土曜日、日曜日又は祝日の十八日間(このほか、開講式(五月)、認定試験(二月)及び認定証授与式(三月)があります。)
- ④ **講座内容** 森林・林業、動植物、野外活動等に関する知識・技能習得のための講義と実習。
- ⑤ **受講費** 無料(予定)。ただし、受講に必要な図鑑等を個別に購入していただく場合があります。
- ⑥ **申込方法** 令和五年二月十日



森林インストラクターの活動

同封し、県自然保護課へ提出。  
⑦ **認定までの流れ** 一次試験(小論文)及び二次試験(面接)に合格すると講座を受講できます。全十八講座のうち、八割以上出席した方が認定試験の受験資格を得られ、試験に合格した方が宮城県森林インストラクターとして認定されます。

⑧ **認定後の活動について** 広く県民を対象に森林・林業の普及啓発活動としてボランティア団体等での活動、海岸林整備、緑化イベントの指導など、幅広い活動が期待できます。

⑨ **申込み・問合せ** 〒980-1857 仙台市青葉区本町三丁目八-1  
宮城県環境生活部自然保護課  
みどり保全班宛て  
電話：023-221-2676  
FAX：023-221-2693  
(自然保護課)

## ハタケシメジの新品種 開発に向けて

県では、県産きのこ生産の更なる振興を図るため、空調施設内での栽培に適したハタケシメジ品種「みやぎLD2号」を開発し、栽培普及と技術指導に努めてきました。しかし、近年では空調施設での栽培以外にも、野外(露地)や農業用ハウスなどの簡易な施設内での栽培を目的とした本品種の菌床需要が増大しています。その一方で、本品種は育種から既に二十年が経過していることから、早急に県開発ハタケシメジ品種の更新を図る必要があります。そこで今回、野外栽培などの生産により適した、新たな後継品種の供給ニーズにも対応できる新品種「みやぎLD3号(仮称)」の開発に取り組むこととしました。

林業技術総合センターでは、天然のきのこを広く県内から収集し、それらから分離した菌株を遺伝資源として保存していますが、この内、野生のハタケシメジ菌株について栽培試験を実施し、きのこの発生が良好な六

菌株を選定して、交配育種に用いる親株としました。この野生菌株をもう一方の親株となる「みやぎLD2号」にそれぞれ交配させることで、約五〇〇の新たな交配株を育種しました。この交配株の中で、菌糸の生長が良好な一六〇株余りについて、栽培試験を実施し選抜を繰り返すことで、優良な形質でかつ目標とする栽培特性を示す新品種候補の選定を進めています。



栽培試験の実施状況

(林業技術総合センター)

# 木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和4年10月)

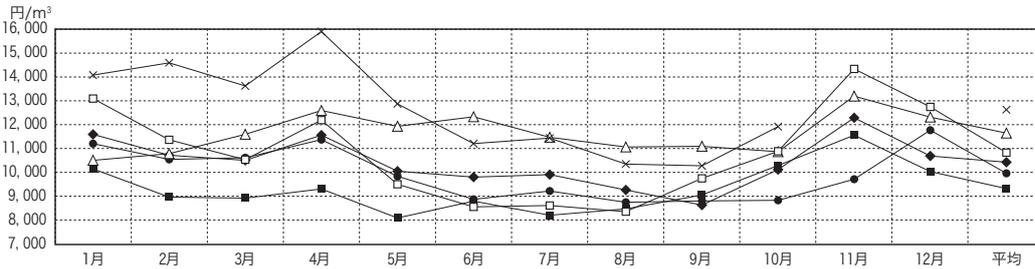
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	15,000	—	15,500	15,000	—
	4.00	10~13直曲	8,000	11,000	9,000	11,000	—
		14~18	10,000	11,000	10,500	11,000	—
		20~28	12,600	12,000	11,500	13,000	—
		30上	12,600	12,000	11,500	13,000	—
	3.65 ~4.00	20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料: 宮城県森林組合連合会

## 概況

### 素材動向

・素材平均価格は例年より高い水準で推移しており、5月以降値下がり続けたものの、前年と同等か上回る価格で推移している。



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

# 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015		

資料: 仙台中央卸売市場

## 概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。  
・令和4年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年を上回って推移している状況である。

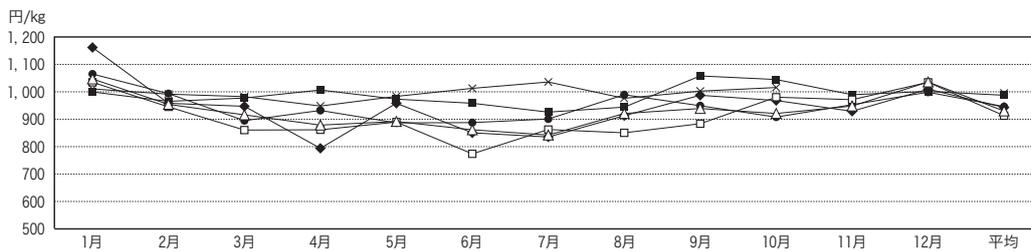


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和4年10月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和4年10月(戸)	1,569	1,089	480	69.4
令和3年10月(戸)	1,466	1,076	390	73.4
前年同月比(%)	107.0	101.2	123.1	—
令和3年11月~令和4年10月(戸)	17,794	11,918	5,876	67.0
令和2年11月~令和3年10月(戸)	15,605	11,609	3,996	74.4
前年同期比(%)	114.0	102.7	147.0	—

資料: 住宅着工統計

## 概況

### 新設住宅着工戸数

・7月の新設住宅計は前年同月比で10%増加し、前年同期比では11%上回っている。  
・利用関係別では貸家と給与住宅が増加したが、持家と分譲住宅で減少した。

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負

## 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150  
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所



## 坂元植林株式会社 株式会社サカモト 坂元植林の家



地域との共生  
「めぐみめぐみ」をテーマに  
私たちは自然を愛し、  
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

## 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘  
専務理事 小澤 幸三  
理事 亀山 征弘  
理事 梶原 領太  
監事 阿部 貢也  
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

## 宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀  
副会長 奥津 文男  
副会長 永井 政雄  
副会長 菅原 正義  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる  
奥地水源地域の森林整備

## 水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011  
仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
宮城県森林組合会館内  
TEL (022) 266-7121

## 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械

## 筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261  
📄 (022)265-9231

〒980-0013  
仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ!



# 木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える「木材」を上手に利用すること（木材のワイズユース）は温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎには良質な木材や優れた加工技術があり、JAS製材品など品質の高い製品も豊富です。どうぞ住まいづくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を改めて実感してください。私たちが誠意を込めてお手伝いします。

### 宮城県木材協同組合の取組例

#### JAS製材品の利用拡大



公営住宅建築におけるJAS材利用

#### 外構の木質化



門扉(塀)の木質化

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 tel:022(233)2883  
<https://miyagi-wood.jp>

森林は大切な資源です  
森林整備を通して  
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社  
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

# 緑の募金 にご協力ください!

令和5年緑化促進事業  
募集中です

### 緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～



## 公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階  
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)<sup>もりちから</sup>等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

## JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

### ■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166      仙北地区木材センター 0229-72-1877  
大衡総合センター 022-345-2205      津山木材センター 0225-68-3038

### ■樹木の枝や根の有効利用は      ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、  
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 **令和4年度の購読申込受付開始!!**



**GR 現代林業**  
A5判 80頁  
年間購読料 5,400円(送料込み)



**林業新知識**  
B5判 24頁  
年間購読料 3,000円(送料込み)



**山林**  
A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課  
☎022-222-3011 七五〇一